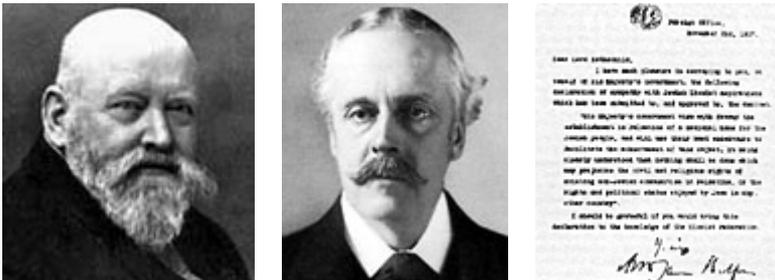


バルフォア宣言

第一次世界大戦後、イギリスはパレスチナに対する「委任統治権」を与えられたが、政府はロスチャイルド家の命ずるところに従った。1917年11月2日、イギリス外相バルフォアは、ロンドン・ロスチャイルド家のライオネル・ロスチャイルド宛に、「イギリス政府はパレスチナでのユダヤ人の国家建設を支持し、努力する」事を確約した書簡（手紙）を出したが、これが有名な「バルフォア宣言」である。



ロンドン・ロスチャイルド家のライオネル・ロスチャイルド（左）とイギリス外相バルフォア（中央）。（右）はバルフォアがライオネル・ロスチャイルド宛に出した手紙＝「バルフォア宣言」（1917年）

●この「バルフォア宣言」は書簡形式をとっているが、この叩き台をつくったのはシオニズム運動の世界的指導者ハイム・ワイツマンとライオネル・ロスチャイルド自身で、彼らは既に1917年7月18日の時点で宣言の「草案」をバルフォアに手渡していたのである。

（ちなみに、この段階で入植地に提供された資金は170万ポンドに達していたが、そのうちの160万ポンドはライオネル・ロスチャイルド自身のポケットマネーであった）。

（「[ヘブライの館2](#)」）

シオニスト連盟

ブログ『隠された真実』の「[国際連盟](#)」の項、また『[るいネット](#)』によると、バルフォア宣言の中に出てきてリンクされているシオニスト連盟（アメリカシオニスト機構）は1917年正式に設立。その総裁が、米最高裁判事ルイス・ブランドスで、米国のシオニスト運動が勢いを持つようになった。